

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
普通期水稲	紋枯病（防除情報第12号継続） トビイロウンカ（警報第1号）	やや多 多	やや多 多
大豆	ハスモンヨトウ 吸実性カメムシ類	やや少 並	並 並
いちご	うどんこ病 炭疽病（ <i>G. cingulata</i> ） ハダニ類 ハスモンヨトウ	並 並 並 並	並 並 やや多 並
アスパラガス	斑点性病害（褐斑病・斑点病） （防除情報第13号） アザミウマ類（防除情報第14号）	やや多 やや多	やや多 多
かんきつ	黒点病 ミカンハダニ	少 少	少 やや少
果樹共通	カメムシ類	並	並
茶	炭疽病 チャノキイロアザミウマ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ クワシロカイガラムシ	やや少 やや少 並 並 少 並 少	やや少 やや少 やや多 やや多 やや少 並 少

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

普通期水稲

1. 紋枯病

令和元年9月3日付け、**病虫害発生予察防除情報第12号**による。
なお、その後の発生状況については以下のとおりである。

(1) 発生状況等

- ア 9月前期の巡回調査(84筆)の結果、発病株率は5.4%(2.4%)、発生圃場率は52.4%(33.4%)であり、一部多発圃場がみられた。
イ 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発病株率は79.0%(40.6%)であった。

2. トビイロウンカ

令和元年9月13日付け、**病虫害発生予察警報第1号**による。

大豆

1. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査(15筆)の結果、寄生株率は2.2%(11.4%)、株当たり虫数は0.1頭(0.5頭)、白変葉発生圃場率は20.0%(47.5%)であった。

イ 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、寄生株率は4.0%(7.5%)、株当たり虫数は0.1頭(0.1頭)であった。

ウ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、少なく推移している(図)。

エ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

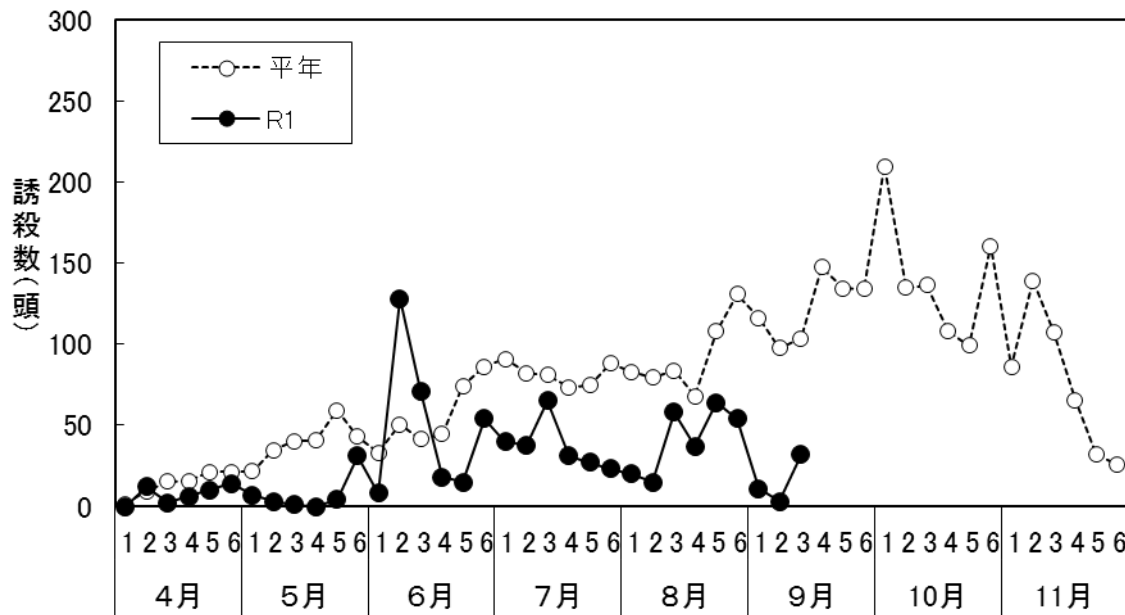


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越) (月・半旬)
平年:H21~H30年の平均値(最大・最小値除く)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 圃場の見回りを徹底し、白変葉が散見され始めたら早急に防除を行う。

イ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので若齢幼虫期に薬剤散布する。

2. 吸実性カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査(15筆)の結果、寄生株率は0.5%(0.7%)、株当たり虫数は0.0頭(0.0頭)、発生圃場率は20.0%(15.8%)であった。

イ 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(寄生株率は5.0%、株当たり虫数は0.1頭)。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査(24筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.01%、

発生圃場率 1.6%)。

2. 炭疽病 (*G.cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 発生状況

ア 9月前期の巡回調査(24筆)の結果、発病株率は0.3%(0.3%)、発生圃場率は8.3%(16.5%)で、一部多発圃場が見られた。

イ 病害虫防除員の報告によると、一部地域でやや多い発生となっている。

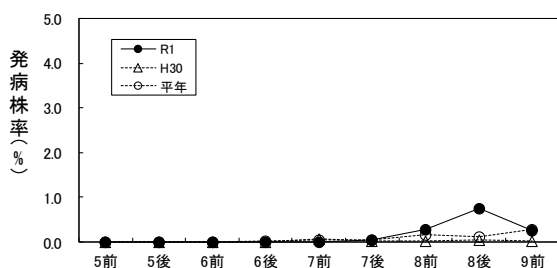


図 炭疽病(*G.cingulata*) 発病株率の推移

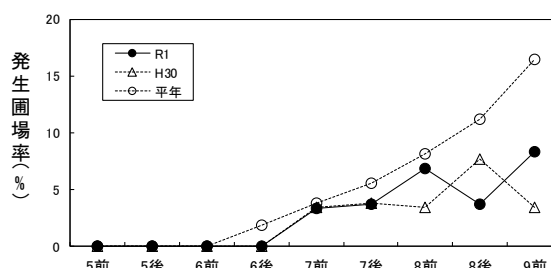


図 炭疽病(*G.cingulata*) 発生圃場率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病株およびその周辺の株は速やかに処分するとともに、定植前の選別を徹底し、疑わしい株は定植しない。

イ 本圃で発病を認めた場合は速やかに抜き取り圃場外へ持ち出す。除去した発病株や茎葉は伝染源となるので圃場内やその周辺に放置しない。

ウ 強風雨や台風の前夜など発生のおそれがあるときは薬剤散布を徹底する。

3. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 発生状況

ア 9月前期の巡回調査(24筆)の結果、発病株率は6.3%(3.8%)、発生圃場率は29.2%(39.0%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みで、本虫の発生に好適である。

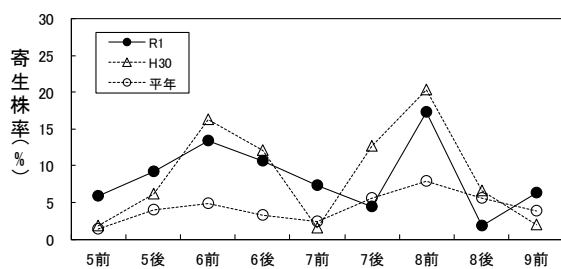


図 ハダニ類 寄生株率の推移

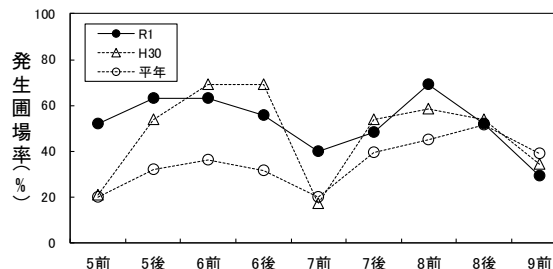


図 ハダニ類 発生圃場率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本圃で多発すると防除が困難になるため、本圃へ持ち込まないよう定植前までに防除を徹底する。

イ 下葉の裏に多く寄生するので、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。なお、古葉を摘葉後に防除すると効果的である。

ウ 薬剤によっては天敵に長期間影響を与えるものがあるので、薬剤の選択と使用時期に注意する。

エ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。

4. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査(24筆)の結果、食害株率は1.1%(1.5%)、発生圃場率は20.8%(24.7%)であった。

イ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、平年より少なく推移している(大豆の項参照)。

ウ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みで、本虫の発生に好適である。

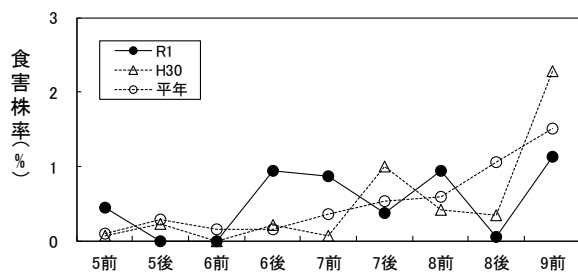


図 ハスモンヨトウ食害株率の推移

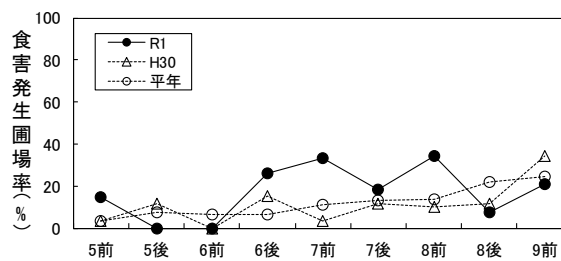


図 ハスモンヨトウ食害発生圃場率の推移

アスパラガス

1. 斑点性病害(褐斑病・斑点病)

令和元年9月18日付け、**病害虫発生予察防除情報第13号**による。

2. アザミウマ類

令和元年9月18日付け、**病害虫発生予察防除情報第14号**による。

かんきつ

1. 黒点病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査(36筆)の結果、発病果率は0.8%(8.4%)、発生圃場率は8.3%(46.0%)であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

2. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は1.7%(5.8%)、発生圃場率は22.2%(40.3%)であった。

果樹共通

1. カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 8月下旬に実施したヒノキきゅう果のビーティング調査の結果、チャバネアオカメムシおよびツヤアオカメムシの1枝当たりの寄生虫数は、2.6頭(平年 2.0頭)で平年並であった(表)。
- イ 予察灯による誘殺数は8月6半旬から9月1半旬にかけて平年より多かったが、佐世保市をのぞく3地点では9月2～3半旬にかけて平年並に減少している。
- ウ 9月上旬の巡回調査の結果、一部のかんきつ園、なし園において飛来を認めている。

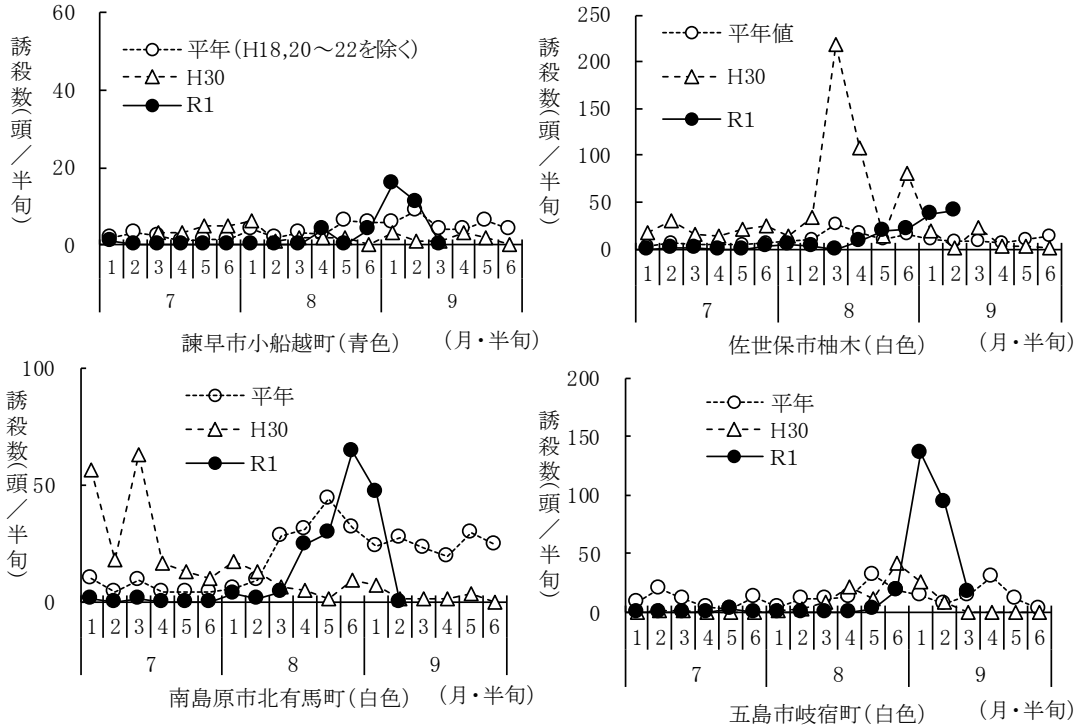


図 果樹カメムシ類誘殺状況(予察灯; 白色、青色)

表 ヒノキ樹(きゅう果着生枝)における果樹カメムシ類の寄生状況

	チャバネアオカメムシ(頭/枝)					ツヤアオカメムシ(頭/枝)					合計
	成虫	老齢	中齢	若齢	計	成虫	老齢	中齢	若齢	計	
令和元年	1.3	0.3	0.4	0.3	2.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.3	2.6
平年	1.1	0.2	0.2	0.2	1.7	0.3	0.0	0.0	0.0	0.3	2.0

* 令和元年8月20、21日にヒノキきゅう果結実枝のビーティング調査を実施

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 果樹園の見回りを徹底するとともに予め防除薬剤等を準備し、飛来や被害果を認めたら早急に防除を行う。
- イ 果樹カメムシ類は主に夕方から夜間に飛来して果実を加害する傾向があるため、薬剤散布は夕方に行う。また、薬剤散布に当たっては使用時期、使用回数等を確認し、使用基準を遵守する。

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（19筆）の結果、1㎡あたり発病葉数は0.6枚（4.5枚）、発生圃場率は73.7%（60.5%）であった。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（19筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は5.3頭（18.2頭）、発生圃場率は89.5%（90.6%）であった。

3. チャノココクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

- ア 9月前期の巡回調査（19筆）の結果、1㎡あたり巻葉数は0.0枚（0.2枚）、発生圃場率は10.5%（10.6%）であった。
- イ フェロモントラップによる誘殺量（農林技術開発センター茶業研究室調査）は、平年より多く推移している（図）。

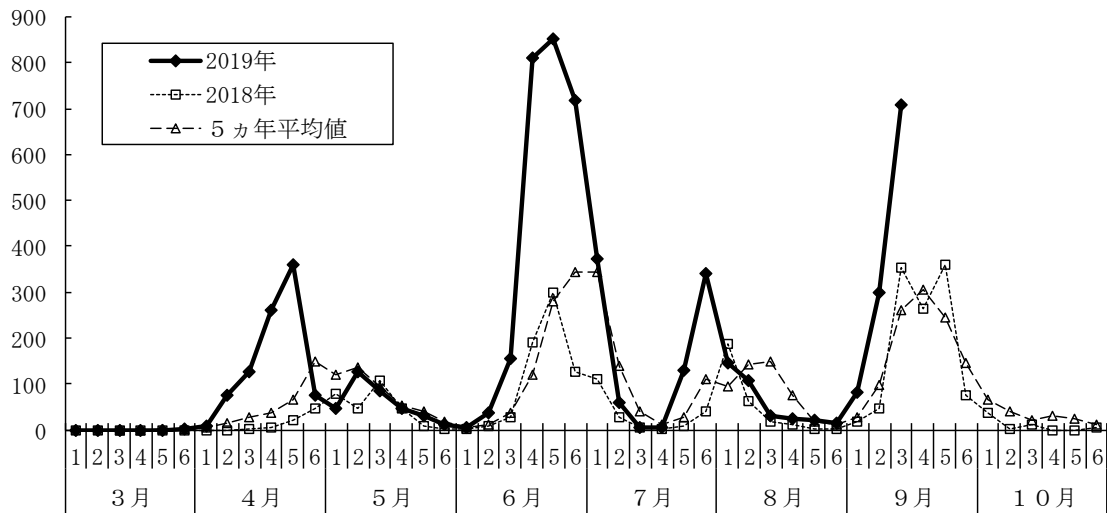


図 チャノココクモンハマキの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤による防除適期は発蛾最盛期から約7～10日後である（脱皮阻害剤での防除適期は発蛾最盛期の頃）。

4. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

- ア 9月前期の巡回調査（19筆）の結果、1㎡あたり巻葉数は0.0枚（0.8枚）、発生圃場率は10.5%（21.3%）であった。
- イ フェロモントラップによる誘殺量（農林技術開発センター茶業研究室調査）は、平年より多く推移している（図）。

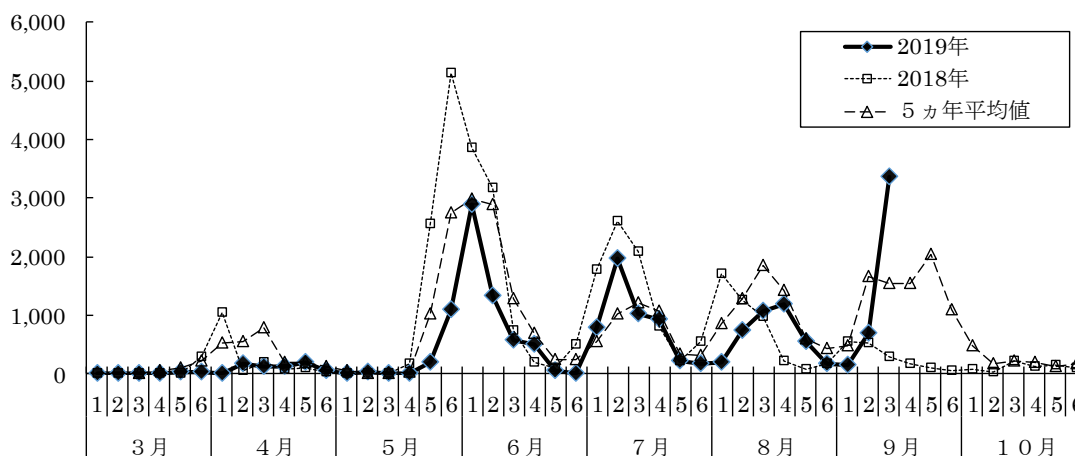


図 チャノホソガの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

(3) 防除上注意すべき事項

ア 茶芽生育ステージが、若芽（1～2葉期）の場合は、巻葉被害が発生するので、防除が必要である。

イ 薬剤防除する場合の防除適期は、発蛾最盛期から約7～10日後である（脱皮阻害剤では発蛾最盛期の頃）。

5. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査（19筆）の結果、寄生葉率は0.2%（1.4%）、発生圃場率は10.5%（18.2%）であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（19筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は1.5頭（2.0頭）、発生圃場率は47.4%（57.2%）であった。

7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（19筆）の結果、発生を認めなかった（寄生株率4.3%、発生圃場率25.0%）。

【参考】

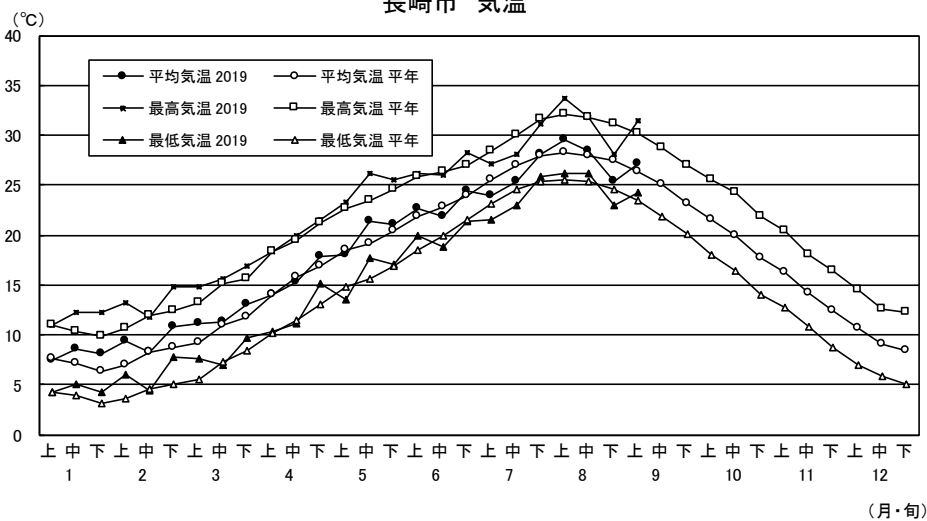
(令和元年9月12日発表 1か月予報 福岡管区気象台)
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	30	60
降水量	40	30	30
日照時間	20	30	50

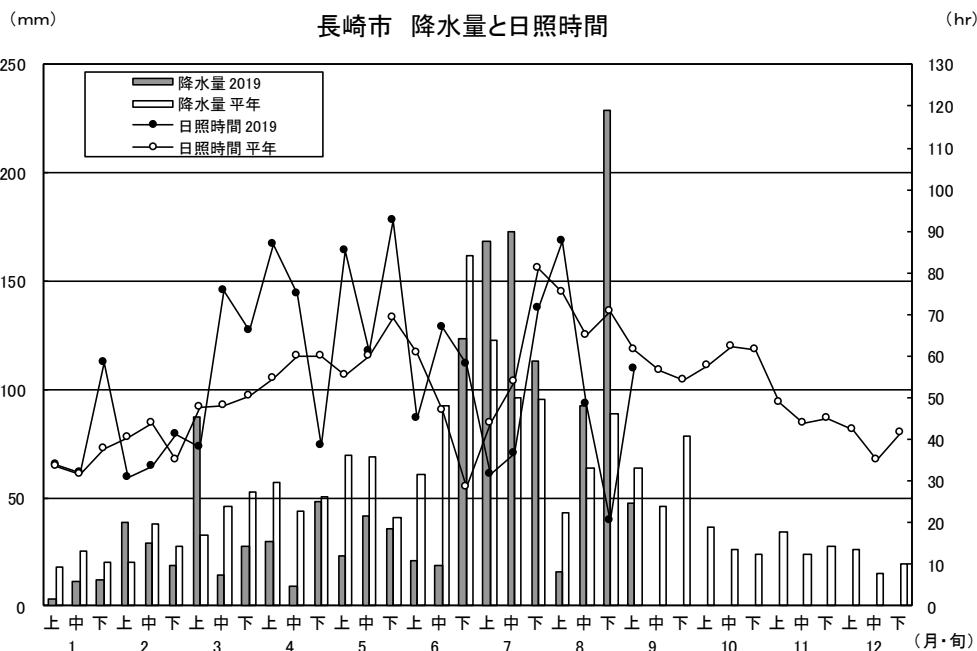
※予報対象地域：九州北部地域

令和元年の気象経過 (長崎地方気象台)

長崎市 気温



長崎市 降水量と日照時間



○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

